

国立大学法人九州大学総長の業務執行状況に対する中間評価について

令和6年2月29日

国立大学法人九州大学総長選考・監察会議

国立大学法人九州大学総長選考・監察会議では、石橋達朗総長が総長就任4年目を迎えたことから、総長の業務執行状況の確認に関する申合せ(令和3年1月26日総長選考会議決定)に基づき、総長就任後3年間の業務執行状況について総合的な評価(中間評価)を行った。

1. 評価対象期間 令和2年10月1日～令和5年9月30日

2. 業務執行状況の確認方法

総長選考・監察会議は以下の方法により、総長の業務執行状況について複数の視点から意見を聴き、評価について検討した。

- 石橋総長から以下の点等について報告がなされた後、意見交換を実施した。
 - 総長就任後3年間の業務執行状況
 - 過去の業務執行状況における総長選考・監察会議委員からの意見に対する対応
 - 「Kyushu University VISION 2030」の実現に向けた具体的取組
 - 残任期間に向けての展望
- 総長の業務執行状況に対する監査結果とそれを踏まえた今後の課題について聴取をする観点から、監事との意見交換を実施した。
- 現在の研究環境・教育環境や総長に期待すること等について、九州大学の構成員が抱く見解等を聴取する観点から、教員との意見交換を実施した。

3. 評価結果

石橋総長の強いリーダーシップのもと、九州大学は「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げ、「指定国立大学法人」に指定されるとともに、目指す姿を実現するため、今後10年間の方向性と方針を示す「Kyushu University VISION 2030」を策定した。石橋総長は九州大学を代表して明確なビジョンを示し、学内外にわたって教育・研究・社会貢献に係る様々な活動に広範に取り組んでおり、総長就任後3年間の業務執行状況は総合的に高く評価でき、リーダーシップの発揮、ガバナンスの構築、研究の社会展開は期待通りの進捗状況にある。

特に評価できる取組と、今後、「総合知で社会変革を牽引する大学」の更なる実現に向けて期待する取組は以下のとおり。

特に評価できる取組

- 「Kyushu University VISION 2030」のもと、未来社会デザイン統括本部、データ駆動イノベーション推進本部、未来人材育成機構などの組織改革や、オープンイノベーションプラットフォーム（OIP）の外部法人化を進め、着実に成果を創出していること。
- 半導体人材育成など、他大学・高専、企業・地方公共団体等との連携・協働の仕組づくりを積極的に進めて大学・地域のポテンシャルを引き出すとともに、全体として九州大学の教育・研究・社会貢献の活動領域を大きく広げつつあること。
- 九州・沖縄オープンユニバーシティ（KOOU）構想を打ち出して九州・沖縄地域の国立大学との連携を主導し、研究力の一層の向上に向けて取組を進め、地域の発展と社会的課題の解決に貢献していること。
- 財務基盤の強化に向け、外部有識者を財務戦略担当理事として登用したほか、財務戦略室を新設するなど、民間の目線を取り入れながら多様な財源確保に着手していること。
- 高大接続を意識した人材育成と、若手研究者や女性研究者に対する育成策を複合的に構築するなど、人材育成に積極的に取り組み、最高水準の研究教育拠点の形成を着実に進めていること。
- 「将来構想の共創・協働制度」等を通じて各部局執行部と密にコミュニケーションをとり、課題と認識の共有を図っていること。
- コロナ禍においても、地方公共団体・医療機関などとの連携を強化するとともに、学内構成員のベクトルを合わせて難局を乗り切るリーダーシップを発揮してきたこと。

今後、期待する取組

- 多様な研究教育活動をさらに拡大するための資源の確保に向け、社会に対する研究成果の可視化や産学連携の自由度の増加、OIP の活用、財務戦略の更なる推進などによる、研究成果の社会実装や財務基盤の一層の強化、財務体質の改善を進めること。
- 若手研究者が活躍できる環境構築に向け、ポストの確保や研究時間の確保、研究をサポートする事務職員の確保について、一層の取組を進めること。
- 大学で働く人の「働き甲斐」の向上で、組織のアウトカムを確保していくこと。
- KOOU や沖縄科学技術大学院大学（OIST）との連携などの九州・沖縄地域の大学連携を更に進め、実質的な研究・教育上の成果に結実させること。
- 18 歳人口の急速な減少により、大学進学者数が大きく減少することが予測されていることについて、九州大学単独では解決できない課題として認識した上で、九州・沖縄地域の国立大学の協働を視野に入れた対策を実施すること。
- 九州大学が世界から注目される大学となるため、国際競争力の強化や国際的なプレゼンスの向上を更に進め、アジアを中心とした国際交流と連携を一層展開させること。
- 国際卓越研究大学を目指して、総長のリーダーシップのもとに学内組織活性化の道筋を探り、学内構成員との対話に引き続き取り組むこと。

変化の激しい予測不可能な時代において、九州大学が持続的に発展し社会に貢献していくためには、社会が持つ価値観や大学に対する期待に機動的、柔軟に対応することが求められる。また、他大学の学長などとも連携し、全国の大学が置かれた現状改善に向けた活動を行うことも必要であろう。

総長の使命は広範囲であり、強力なパワーを要するものではあるが、これまで九州大学が培ってきた歴史・資産も活かし、引き続き、石橋総長の実行力と機動力を持って、取組を進めていただき、後世に残るような成果の早期実現を強く望む。